

平成 25 年度中央区特色ある区づくり事業

「超高齢地域支え合いモデル事業」【継続】

(平成 24 年度～)

目的

中央区では一部の地域では高齢化率が 30%を超える地域もある中、単身高齢者が増加している。このような社会情勢の変化に伴いかつては三世代家族の同居によって家族が高齢者の生活を支えたが、家族以外の担い手の創出が不可欠となっていることから、高齢者に身近な存在(=地域住民)を核とした支え合いの関係づくりが急務となっている。

地域住民と企業体が一体となって高齢者の見守りや生活支援等に取り組む地域づくりを行う団体に対して支援を行うことにより、高齢者の社会的孤立を防ぎ、地域で安心して生活できるまちづくりを進める。

効果

- ・社会的に孤立している単身高齢者等の減少
- ・地域住民同士の繋がりが深まることによるコミュニティの基盤強化

内容

しもまち地区の取り組みを継続して支援するとともに、新たに山潟地区をモデル地区に指定し、高齢化に伴う地域の問題を洗い出して、解決する仕組みづくりを支援する。

また、助け合いのまちづくりの機運を醸成するため、区民を対象としたシンポジウムを開催し、有識者による講演やパネルディスカッションを開催すとともにモデル地区の活動報告を行う。

「パパ・ママ子育て支援事業」【新規】

(平成25年度～平成27年度)

目的

「父親の育児参加」をテーマに、妊娠中から父親への育児参加の意識付けを行います。休日に育児相談を行い、夫婦で参加しやすい環境づくりと講座などを通して参加者の交流を深め、子育ての悩みを相談しやすい場を提供する。

また、子育てリフレッシュ策を中心とした情報誌を発行し、母親の子育て負担の軽減及び児童虐待防止を図る。

効果

早期から父親が育児参加する機会を設けることで母親と共に子育てに向き合い、虐待防止へとつながる。

内容

○にちよう育児相談（日曜日に行う出張育児相談）

【開催会場】 デッキィ 401 午後1時～午後3時30分（月3回）

○子育て情報誌の発行

児童虐待防止や短時間でも子どもを預けられるサービスの紹介、父親の育児参加を促す取り組み子育てリフレッシュ策の紹介などを中心とした情報誌の発行。

◆年1回発行予定 10,000部

◆区役所、保健センター、子育て支援センター等に設置

○ふれあいスキンシップ（パパとママで行う親子遊び）

生後3か月頃の乳児を対象に親子遊びを通してスキンシップをはかり、ママとパパと子どもの愛着形成を促し、父親の育児参加のきっかけをつくる。

【開催回数】 月1回実施

【開催会場】 まちなか交流サロン「アルク」

○妊婦と先輩ママとの情報交換会

先輩ママに赤ちゃんを連れて来てもらいグループワークに参加してもらい、妊婦は赤ちゃんを見ながら体験談を聞き、産後の育児のイメージを持ってもらい妊婦同士の交流を図る。その後、赤ちゃん人形を使用して育児疑似体験をしよう。

【開催回数】 安産教室3回1コースの2回目で実施（6回）

【開催会場】 南地域保健福祉センター

「地域で健康づくり支援事業」【新規】

(平成25年度～)

目的

地域コミュニティの繋がりを基盤として、地域内のスポーツクラブ、カルチャースクール等事業者や運動普及推進委員、食生活改善推進委員などの社会資源を活用した地域主体の健康づくり事業を区民との協働により実施する。

礎地域コミュニティ協議会及び南万代小学校区コミュニティ協議会の2団体を対象として実施。

効果

地域コミュニティが主体となって健康づくり事業を実施することにより運動習慣のない高齢者に対するきめ細かい普及活動が実現し、もって、区民の介護予防、生活習慣病予防等につながる。

内容

事業の準備と実施（地域と区役所、事業所等との協働）

- ①地域コミュニティ協議会、運動普及推進委員、食生活改善推進委員との協働で事業実施プロジェクトチームを発足し、事業計画を立案する。
- ②スポーツクラブ事業者等の健康づくりに係る地域の社会資源を洗い出し、更なる協働を呼びかける。
- ③地域の運動習慣のない高齢者にきめ細かな働きかけを行い、参加者を募る
- ④事業計画に基づき、運動教室や調理実習、学習会などを開催する。